



山口大学医学部附属病院 内科専門研修

山口大学医学部附属病院内科診療科



YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

Yamaguchi University Hospital

山口大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

山口県宇部市の中心地にある本院は、山口県内唯一の大学病院として3次救急を初めとする重症疾患や希少疾患を多く診療しているのはもちろんのこと、宇部市の地域医療の中核をなし、コモンディーズの診療から専門診療まで幅広い内科系疾患の診療が可能です。

また、山口県内の卒後臨床研修基幹病院全てを連携施設とし、山口県内全域にある中小病院を特別連携施設とした、県内全域に渡る広域の研修体制を敷いています。連携施設や特別連携施設では、大学では経験が少ない1～2次救急疾患を多く経験することができます。

病院概要

病床数	全 体：756床 内科系：169床
内科外来患者述べ数	73,686人/年 (R2)
内科退院患者数	3,417人/年 (R2)
救急車搬入件数	1,329件 (内科症例 13.1%)
内科指導医数 総合内科専門医数	72名 (R4.5) 39名 (R3.5)
剖検数 CPC数(内科系)	10体 (R1)、3体 (R2) 4回 (R2)
日本内科学会発表数 内科系学会発表数	10件 (R2) 167件 (R2)

学会認定施設資格一覧

山口大学医学部附属病院では、内科専門医資格取得の他、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医、循環器専門医、腎臓専門医、リウマチ専門医、血液専門医、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医、神経内科専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医、感染症専門医、救急専門医、その他多くの専門医資格取得が可能です。

日本内科学会認定教育病院	日本消化器病学会基幹研修施設	日本肝臓病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本肥満学会	日本超音波医学会基幹研修施設
日本循環器学会研修施設	日本高血圧学会認定研修施設	日本動脈硬化学会教育病院
日本心血管インターベンション治療学会研修施設	日本不整脈学会・日本心電図学会研修施設	日本輸血細胞治療学会基幹研修施設
日本腎臓学会基幹研修施設	日本透析医学会教育関連施設	日本リウマチ学会研修施設
日本内分泌学会基幹研修施設	日本糖尿病学会認定教育施設	日本血液学会研修施設
日本臨床腫瘍学会基幹研修施設	日本神経学会教育施設	日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本老年医学会認定施設	日本頭痛学会教育施設	日本認知症学会教育施設
日本アレルギー学会認定教育施設	日本呼吸器学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本感染症学会認定研修施設	日本救急医学会専門医指定施設	日本集中治療医学会研修施設

研修理念

山口大学医学部附属病院の内科専門研修プログラムでは、標準的かつ全人的な内科医療を実践し、内科領域の将来のリーダーを目指して、以下の理念に沿った研修を行います。

1. 内科専門医として、内科医療の実践に必要な知識と技能、態度を習得する。
2. チーム医療におけるリーダーとしての役割を理解し、協調性をもって医療を実践する。
3. 患者家族に対して人間性をもって接し、全人的内科医療を行う。
4. 内科専門医として医療安全管理を理解し、危機対応能力や問題解決を身に付ける。
5. 内科専門医としての論理的思考力を磨き、医学的指導者となるべく研究マインドを研鑽する。

内科全体の年間研修スケジュール

- 山口大学医学部附属病院では、基幹施設として必修講習会、CPC、JMECC、内科合同カンファレンス等が定期的で開催されています。
- 内科専攻医は、感染対策講習会、医療安全講習会、医療倫理講習会の年2回の受講が義務付けられています。
山口大学では必修講習会に「受講票」を発行します。年次判定時に必要ですので大切に保管して下さい。また開催日以外にDVD講習会が複数回予定されていますので確実に受講することができます。
- 感染対策、医療安全、医療倫理講習会は、連携施設や特別連携施設で研修をしている間も受講が必要です。日本内科学会主催の認定講習会や連携施設内の認定講習会を受講するか、本院の講習会を受講して下さい。
- CPCは年間通じて10～12回開催され、内科専攻医は参加を義務付けられています。
- 第3木曜日に定期開催予定ですが担当診療科の都合により変更となる場合があります。
開催日時や詳細は事前にメールでお知らせします。
- JMECCは本院で年2回開催予定です。年度ごとの専攻医数により年間開催日数を調整することがあります。受講後、ICLS・JMECC受講票が発行されます。終了判定に必要ですので大切に保管して下さい。
- 本院内科診療科が合同で、希少疾患や重要な疾患についてのカンファレンスを定期開催します。
5, 7, 9, 10, 2月の第3水曜日に定期開催予定です。1回につき、2つの分野から1症例ずつ提示します。
- 上記の行事の他、内科学会総会（4月）、地方会（5月、11月）、各サブスペシャリティ学会総会、地方会等へ積極的に参加して下さい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
行事	オリエンテーション 感染対策講習会 CPC	医療倫理講習会 CPC 内科合同カンファ	医療安全講習会 CPC JMECC	医療倫理講習会 CPC 内科合同カンファ		CPC 内科合同カンファ
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	医療安全講習会 感染対策講習会 CPC 内科合同カンファ	CPC	感染対策講習会 CPC JMECC	CPC	CPC 内科合同カンファ	CPC JMECC

(注) 上記スケジュールは予定であり、各講習会の日程は変更となる場合があります。
開催時には担当部署よりメール連絡があります。
必修講習会は全て、開催月の翌月にDVD講習会を実施しています。未受講者にはDVDを貸出します。

内科専門研修プログラム コース選択と支援体制

- 本プログラムにおいては、基幹施設の内科指導医の中から、3年間の研修を通じて指導や支援を行う「チューター」が選定されます。
- 総合内科専門医を目指し内科全般の研修を希望する、または将来選択を希望するサブスペシャリティ分野が未定の専攻医は、専攻医支援室に所属し、①内科基本コースでの研修を行います。チューターとなる指導医は、基幹施設の内科指導医からセンターにより指名、選任されます（支援センター担当教員がチューターとして想定されます）。
- 専攻するサブスペシャリティ分野が決定している専攻医は、該当する内科診療科に所属し、研修を行います。サブスペシャリティ分野の研修の質を担保するため、所属診療科からチューターとなる指導医が選出されます。研修開始時の内科全般の習得状況により、②サブスペシャリティ専門分野1年重点研修コース、③サブスペシャリティ専門分野並行研修コース、④内科・サブスペシャリティ分野混合研修コースを選択します。
- ローテーション研修中は該当する診療科の指導医が直接の指導を行います。連携施設においては、各施設の指導医が直接の指導を担当します。
- 基幹施設における内科サブスペシャリティ分野の担当診療科は下記（表1）の通りです。

《表1. 山口大学医学部附属病院の各診療科が担当するサブスペシャリティ専門分野》

専門分野	担当診療科
消化器・肝臓	第1内科
循環器	第2内科
腎臓	第2内科
膠原病・リウマチ	第2内科
内分泌代謝・糖尿病	第3内科
血液	第3内科
神経	脳神経内科
呼吸器	呼吸器・感染症内科
感染症	呼吸器・感染症内科
アレルギー	呼吸器・感染症内科
内科一般	総合診療部、内科診療科全て
救急	先進救急診療センター、内科診療科全て

*全ての診療科において、内科一般や、臓器別感染症、アレルギー疾患や救急疾患等の経験が可能です。

*内科全身管理目的に、集中治療部（ICU）での研修を選択することもできます（要相談）。

*連携施設内では、内科全領域の救急当直業務や選択したサブスペシャリティ分野の救急当番を担当します。

《サブスペシャリティ連動研修について》

- 消化器、循環器、腎臓、膠原病・リウマチ、内分泌代謝・糖尿病、血液、神経、呼吸器分野については、内科研修2年目以降のサブスペシャリティ研修との連動研修が可能です。
- アレルギー、感染症分野のサブスペシャリティ研修は、内科研修終了後から研修可能です。
- 消化器分野の研修では、サブスペシャリティ専門分野としての消化器専門研修と肝臓専門研修、内視鏡学会専門医を並行して研修できます。

内科専門研修プログラム コース詳細

- 本プログラムは、①内科基本コース、②サブスペシャリティ専門分野1年重点研修コース、③サブスペシャリティ専門分野並行研修コース、④内科・サブスペシャリティ分野混合研修コースに分けられます。
- 本プログラムでは、基幹施設内のすべての内科診療分野で研修を行うことができます。ただし、基幹施設内の診療分野でのローテーション研修の順序や時期等については、山口大学医学部附属病院専攻医支援室が、専攻医の希望や該当する診療分野の状況を踏まえて調整した上で決定します。連携施設の選定は、専攻医の希望するサブスペシャリティ領域や施設を考慮した上で、管理委員会が決定します。
- 専攻医は、研修開始時に希望するコースを選択しますが、修了要件の達成度、キャリア形成の志向に応じて研修期間中にコースを変更することができます。希望するサブスペシャリティ分野を変更する場合は、担当のチューターと相談し、プログラム管理委員会に報告した上で、研修スケジュールの変更や各診療科との調整を行います。同時に担当のチューターも該当診療分野の指導医に変更となります。コース内の研修スケジュールは希望により変更できますが、担当診療科の受け入れ状況によるため、1か月前までの届出が必要となります。

1 内科基本コース

- 将来広範囲に渡り高度な内科診療を行うことができる内科専門医や指導医となるために、内科領域を幅広く研修するコースです。
- 3年間内科全般の研修をしたい専攻医や、将来のサブスペシャリティが未定である専攻医が該当します。
- 研修期間中2年間を基幹施設内の内科診療分野、総合診療部及び先進救急医療センター等の希望する診療分野を原則として2～3ヶ月毎にローテーション研修し、各分野のサブスペシャリティ専門医の指導の下で高度な内科診療を満遍なく学ぶことができます。
- 原則として研修3年目は連携施設で内科一般の研修を中心に行い、充足していない症例を経験します。
- 研修途中で将来のサブスペシャリティ専門領域が決まった場合は、3年目の後半にサブスペシャリティ領域に重点的な研修を行うことも可能です。

《内科基本コース研修例：最終的にA分野をサブスペシャリティ分野として選択した場合》

	施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹	A分野		B分野		C分野		D分野		E分野		F分野	
2年目	基幹	G分野		H分野		総合診療部		先進救急診療センター		A分野（自由選択）			
3年目	連携	A分野			I分野	J分野	不足分野		A分野				

*ローテーション期間は専攻医の希望と診療科の受け入れ状況により1～6ヶ月の間で自由に設計できます。

*基幹施設での研修期間中に他の複数の連携施設に研修へ行くこともできます（要相談）。

*1年目や2年目に連携施設で研修することもできます（要相談）。

2 サブスペシャリティ専門分野 1年重点研修コース

- 内科全般を幅広く研修しながらも、志望する内科サブスペシャリティ分野を特に重点的に研修するコースです。
- 原則として研修1年目は基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設あるいは連携施設で研修を行います。また、研修開始直後3～6ヶ月と研修修了前3～6ヶ月以上は該当するサブスペシャリティ分野の担当診療科で研修を行い、それ以外の期間は他の内科分野についてのローテーションも含めて内科全般の研修を行います。
- 選択するサブスペシャリティ分野によって、
 - ①消化器内科専門コース、②循環器内科専門コース、③腎臓内科専門コース、
 - ④膠原病・リウマチ内科専門コース、⑤内分泌代謝・糖尿病内科専門コース、
 - ⑥血液内科専門コース、⑦神経内科専門コース、⑧呼吸器内科専門コース に分けられます。
- それぞれの研修スケジュールの詳細は担当する診療科と専攻医によって異なります。(P 8～)
- 全体の修得状況によってサブスペシャリティ分野を専攻とする大学院進学も可能です。

《サブスペシャリティ重点コース研修例：B分野をサブスペシャリティ分野として選択した場合》

	施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹	B分野			C分野			D分野		E分野		F分野	
2年目	連携	G分野		H分野		I分野		J分野		A分野		B分野	
3年目	基幹	不足分野			B分野								

*原則として3年間で通算12ヶ月間以上、志望するサブスペシャリティ分野の研修を行います。

*原則として3年目は基幹施設でサブスペシャリティ分野の研修を重点的に行いますが、不足症例の充足のためにローテーションすることもできます。

*1年目や3年目に連携施設で研修することもあります(選択分野による)。

*特別連携施設で1年間研修することもあります(選択分野による)。

3 サブスペシャルティ専門分野並行研修コース

- 内科全般を幅広く研修しながら、志望する内科サブスペシャルティ分野を並行して研修するコースです。
- 原則として研修1年目は基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設あるいは連携施設で研修を行います。研修1年目は該当するサブスペシャルティ分野の担当診療科で、内科研修からサブスペシャルティ研修に及ぶ到達レベルの研修を3～6ヶ月間行います。それ以外の期間は他の内科分野についてのローテーションも含めて内科全般の研修を行い、この間サブスペシャルティ分野の研修も継続的に行います。研修2年目はサブスペシャルティ分野の研修を中心とした内科全般の研修を行います。研修3年目はサブスペシャルティ分野の研修を主に行いながら、内科専門研修の不足症例の充足に努めます。原則としてサブスペシャルティを重点的に研修する期間は特に定めず、専攻医の症例の経験状況を踏まえて研修期間やローテーションを設定します。
- 選択するサブスペシャルティ分野によって、
 - ①消化器内科専門コース、②循環器内科専門コース、③腎臓内科専門コース、
 - ④膠原病・リウマチ内科専門コース、⑤内分泌代謝・糖尿病内科専門コース、
 - ⑥血液内科専門コース、⑦神経内科専門コース、⑧呼吸器内科専門コース に分けられます。
- それぞれの研修スケジュールの詳細は担当する診療科と専攻医によって異なります。(P 8～)
- 全体の修得状況によってサブスペシャルティ分野を専攻とする大学院進学も可能です。

《サブスペシャルティ並行研修コース研修例：C分野をサブスペシャルティ分野として選択した場合》

	施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年目	基幹	C分野					D	E	F	G	H	I	A	B
		内科研修												
2年目	連携	不足分野	不足分野を随時研修											
		内科研修	C分野（サブスペシャルティ分野を中心とした内科全般の研修）											
3年目	基幹	不足症例を随時研修												
		C分野（サブスペシャルティ研修を主に行う）												

*診療分野のローテーション研修は原則基幹施設で行います。

*原則として2-3年目はサブスペシャルティ分野の研修を重点的に行いますが、不足症例の充足のためにローテーションすることもできます。

*1年目や3年目に連携施設で研修することもあります（選択分野による）。

*特別連携施設で1年間研修することもあります（選択分野による）。

4 内科・サブスペシャリティ専門分野混合研修コース

- 4年間で内科全般と志望する内科サブスペシャリティ分野を研修するコースです。
- 原則として研修1年目は基幹施設、2年目は連携施設、3-4年目は基幹施設あるいは連携施設で研修を行います。研修期間中は該当するサブスペシャリティ分野の担当診療科で、内科研修とサブスペシャリティ研修を行います。他の内科分野について特に不足した分野がある場合はローテーションも含めて研修を行うことができます。
- 選択したサブスペシャリティ分野を継続して4年間研修するため、内科研修開始時に一定以上の内科全分野の経験があることが望まれます。
- 選択するサブスペシャリティ分野によって、
 - ①消化器内科専門コース、②循環器内科専門コース、③腎臓内科専門コース、
 - ④膠原病・リウマチ内科専門コース、⑤内分泌代謝・糖尿病内科専門コース、
 - ⑥血液内科専門コース、⑦神経内科専門コース、⑧呼吸器内科専門コース、 に分けられます。
- それぞれの研修スケジュールの詳細は担当する診療科と専攻医によって異なります。(P 8～)
- 全体の修得状況によってサブスペシャリティ分野を専攻とする大学院進学も可能です。

《サブスペシャリティ混合研修コース研修例：D分野をサブスペシャリティ分野として選択した場合》

	施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹	内科研修（不足分野を随時研修）										不足A	不足B
		D分野（サブスペシャリティ分野を中心とした内科全般の研修）											
2年目	連携	内科研修（不足分野を随時研修）											
		D分野（サブスペシャリティ研修を中心とした内科全般の研修）											
3年目	基幹	内科研修（不足症例を随時研修）											
		D分野（サブスペシャリティ研修を主に行う）											
4年目	基幹	内科研修（不足症例を随時研修）											
		D分野（サブスペシャリティ研修を主に行う）											

* 原則としてサブスペシャリティ分野の研修を継続的に行いますが、不足症例の充足のためにローテーションすることもできます。その場合の診療分野のローテーション研修は原則基幹施設で行います。

* 1年目や3-4年目に連携施設で研修することもあります（選択分野による）。

* 特別連携施設で1年間研修することもあります（選択分野による）。

* 4年間で内科研修とサブスペシャリティ分野研修を同時に修了し、5年目（医師7年目）に内科専門医試験とサブスペシャリティ分野専門医試験を受検することができます。

消化器・肝臓分野研修

消化器・肝臓分野は、山口大学医学部附属病院第一内科が担当します。



週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	腹部エコー 上部消化管内視鏡検査 血管造影検査	治療内視鏡(ESD) 大腸内視鏡検査 血管造影検査	
火	腹部エコー 上部消化管内視鏡検査 消化管X線造影検査 エコー下治療 (肝生検・肝癌局所治療) 治療内視鏡(静脈瘤) 胆膵内視鏡(ERCP/EUS)	新患カンファレンス 病棟回診	肝臓カンファレンス
水	腹部エコー 上部消化管内視鏡検査 胆膵内視鏡(ERCP/EUS)	治療内視鏡(ESD) 大腸内視鏡検査 胆膵内視鏡(ERCP/EUS)	胆膵カンファレンス
木	腹部エコー 大腸内視鏡検査	大腸内視鏡検査 小腸内視鏡検査	消化管カンファレンス
金	腹部エコー 上部消化管内視鏡検査 治療内視鏡(ESD) 血管造影検査	大腸内視鏡検査 血管造影検査	

《研修の特徴》

第一内科では消化器疾患全般を対象に高度な専門知識・技術を基に診療を行っています。

- 消化管領域：上下部消化管悪性腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)をはじめとして、原因不明な消化管出血などへのカプセル内視鏡、バルーン内視鏡など最先端の消化管の検査・治療を行っています。また、全身麻酔下で行う高度な内視鏡治療も積極的に挑戦しています。近年増加している炎症性腸疾患へも病状に応じた治療を行います。

- 胆膵領域：内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)や超音波内視鏡(EUS)を用いた胆膵疾患の精密検査・治療を行っています。急性膵炎・胆道炎といった急性疾患のみでなく、膵臓癌・胆道癌などの悪性腫瘍に対する薬物治療・緩和治療にも精力的に取り組んでいます。

- 肝臓領域：急性肝炎から慢性肝炎・肝硬変・肝癌までトータルマネジメントを扱います。特に、ウイルス性肝炎に対するDAA治療や肝硬変に伴う門脈圧亢進症に対するIVR治療、肝細胞癌に対するIVR治療や薬物療法に力を入れています。

その他、近年問題となっている肥満症に対する介入やアルコール性肝障害や膵炎等を対象とした減酒治療など領域を跨いだ診療も行います。

いずれの領域も内科・外科・放射線科や病理診断科と連携しながらそれぞれの患者さんにあわせたベストな治療を提供しています。

サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 消化器・肝臓分野をサブスペシャリティとして選択した場合、「サブスペシャリティ専門分野並行研修コース」での研修をお勧めしています(その他の研修コースについても個別相談に応じます)。
- 「サブスペシャリティ専門分野並行研修コース」の研修期間3年間では、1年目：基幹施設、2年目：連携施設(または1年目：連携施設、2年目：基幹施設)、3年目は基幹施設で研修を行います。基幹施設での研修期間に、他科と連携して不足分野の研修を行っています。
- 消化器・肝臓分野を研修できる施設は以下の通りです。
(基幹施設) 山口大学医学部附属病院第一内科
(連携施設) 周東総合病院、徳山中央病院、山口県立総合医療センター、済生会山口総合病院、宇部興産中央病院、山口労災病院、萩市民病院、済生会下関総合病院、関門医療センター、下関医療センター、小倉記念病院
(特別連携施設) 長門総合病院、小郡第一総合病院、山陽小野田市民病院、美東病院、新南陽市民病院、光総合病院、大和総合病院、大島病院、セントヒル病院等

循環器分野研修

循環器分野は、山口大学医学部附属病院第二内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	病棟業務	病棟業務	不整脈 カンファレンス 心エコー カンファレンス
火	新患カンファレンス 教授回診	症例検討会 病棟業務	心不全 カンファレンス 心臓カテーテル カンファレンス
水	心臓カテーテル検査 TAVI 運動負荷・RI検査	心臓カテーテル検査 TAVI	心リハカンファレンス 心臓CTカンファレンス
木	心臓カテーテル検査 EPS・アブレーション	心臓カテーテル検査 EPS・アブレーション	
金	心臓カテーテル検査 EPS・アブレーション 運動負荷・RI検査	心臓カテーテル検査 EPS・アブレーション	



《研修の特徴》

第二内科の特徴は、循環器疾患、腎臓疾患、膠原病疾患にわたる幅広い領域において、最新の医療技術を駆使した正確な診断及び高度医療の提供を行っています。また、心不全、急性心筋梗塞などの重症疾患に対しては、24時間体制で高度救命救急診療を行っています。循環器疾患の典型例や重症例を担当し、超急性期から慢性期の疾患の診断法・治療法を学びます。さらに、急性冠症候群、重症心不全、難治性不整脈に対する救急医療、高度医療をチームで取り組み、心エコーからRI、CT、MRIまで、非侵襲的画像診断を駆使した診断法を体系的に身につけます。また、心臓リハビリテーションを通じて慢性期の心疾患の管理方法を修得できます。



サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 循環器分野では、1年目が山口大学医学部附属病院、2年目は連携施設、3年目は山口大学医学部附属病院で研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は山口大学医学部附属病院で研修を行います。
- 循環器分野を重点研修できる施設には、山口大学医学部附属病院第二内科、山口県立総合医療センター、徳山中央病院、周東総合病院、済生会山口総合病院、山口労災病院、宇部興産中央病院、下関医療センター、関門医療センター、済生会下関総合病院、島根県立中央病院、愛媛労災病院、浜田医療センターがあります。
- 基幹施設では、循環器重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 連携施設では、循環器分野を中心とした内科全般の研修を行います。

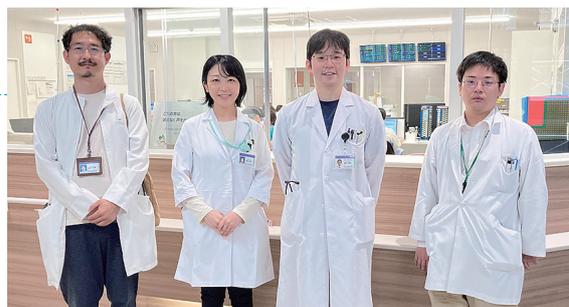
連絡先：山口大学医学部附属病院 第二内科 TEL(0836)22-2248
担当指導医 岡村 誉之(E-mail : t-okamu@yamaguchi-u.ac.jp)

腎臓分野研修

腎臓分野は、山口大学医学部附属病院第二内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	専門外来 病棟業務	専門外来 病棟業務 チーム回診	
火	第二内科 新患カンファレンス 教授回診	腎生検 チーム回診	透析カンファレンス 腎・膠原病 カンファレンス
水	腎生検	透析業務 専門外来 チーム回診	
木	病棟業務	病棟業務 チーム回診	
金	病棟業務	透析業務 専門外来 チーム回診	



《研修の特徴》

2022年よりチーム制を導入しており、診療チームの一員として入院患者を担当します。腎炎・ネフローゼに対しては積極的に腎生検を施行し、ステロイドや免疫抑制剤・生物学的製剤を用いた治療を行っています。慢性腎臓病に対しては早期からの全身合併症介入、患者さんとお話しながらの腎代替療法選択を大切にしています。CCMCやAMECにおける急性期血液浄化、集中治療を経験します。泌尿器科との連携で腎移植・維持透析にも対応しています。第二内科は総合内科ともいえる診療領域の広さで、急性期から慢性期にわたる全身管理、心腎連関、免疫標的臓器・内分泌臓器としての腎臓といったよその腎臓内科ではできない多彩な切り口からの研修が可能です。



サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 腎臓内科分野では、1年目で山口大学医学部附属病院第二内科、2-3年目で山口大学医学部附属病院第二内科及び連携施設を組み合わせた研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は山口大学医学部附属病院第二内科または連携施設のいずれかで研修を行います。
- 腎臓内科分野を重点研修できる施設には、山口大学医学部附属病院第二内科、済生会下関総合病院、済生会山口総合病院があります。
- 基幹施設では、腎臓重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 連携施設では、原則として内科全般の研修以外に腎炎・ネフローゼに対する診断治療、急性腎障害・慢性腎臓病のマネジメント、腎代替療法の選択・導入（アクセス作成手術）、導入後の長期的透析管理に対する研修を行います。

連絡先：山口大学医学部附属病院 第二内科 TEL(0836)22-2248
担当指導医 澁谷 正樹(E-mail : mshibuya@yamaguchi-u.ac.jp)

膠原病分野研修

膠原病分野は、山口大学医学部附属病院第二内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	病棟業務	病棟業務	
火	新患カンファレンス 回診	回診	膠原病・腎臓 カンファレンス
水	専門外来	病棟業務	
木	専門外来	専門外来	
金	病棟業務	病棟業務	



《研修の特徴》

膠原病・リウマチ性疾患は皮膚・関節・肺・腎臓・循環器・神経系・感覚器など多臓器にまたがる疾患です。膠原病、リウマチ性疾患を診る専門医は「病院のシャーロックホームズ・最後の砦」に例えられ、自然に総合医的な診断能力を養うことができます。この点が膠原病/リウマチ医の醍醐味と言えます。しかも、同じ第二内科のなかに循環器、腎臓の専門科が有るため、各分野のより専門性の高い内容まで掘り下げて検討できます。さらに重症症例の循環管理・透析など全身管理を学ぶにもこれほど適した環境は無いと言えるでしょう。真の総合内科医を目指す先生にとっては、当科膠原病班で研鑽を積む事が近道であると確信しています。県下一円から膠原病の症例が集まってくるため患者数は非常に豊富であり、ステロイド、生物学的製剤や免疫抑制剤を用いた最新の治療法、日和見感染の制御、そして今後は関節エコーを用いた診断などにも力を入れていきます。学会発表や論文作成の指導も行いますし、専門医をめざす医師にとっても十二分な経験を積む事ができる環境と言えます。

サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 膠原病分野では、1年目が基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設で研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は基幹施設で研修を行います。
- 膠原病分野を重点研修できる施設には、山口大学医学部附属病院第二内科、山口県済生会山口総合病院、下関市立市民病院、山口赤十字病院、島根県立中央病院があります。
- 基幹施設では、膠原病重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 膠原病分野では内科の幅広い知識が要求されるため基幹施設、連携施設を問わず関連のある他分野（呼吸器、腎臓、神経、循環器など）にも気を配った分野選択が重要になります。

連絡先：山口大学医学部附属病院 第二内科 TEL(0836)22-2248
担当指導医 名和田 隆司(E-mail:tnawata@yamaguchi-u.ac.jp)

血液分野研修

血液分野は、山口大学医学部附属病院第三内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	病棟業務	病棟業務	血液ランチミーティング
火	病棟業務 症例カンファレンス	回診 病棟業務	症例 カンファレンス
水	地域医療研修 (外勤)	地域医療研修 (外勤)	造血幹細胞移植 カンファレンス 論文抄読会
木	病棟業務 (外来当番)	病棟業務	
金	病棟業務	病棟業務	血液新患 カンファレンス



《研修の特徴》

血液分野では、各種疾患の病態解明が進み、新たな治療法が次々に開発されています。遺伝子異常による疾患分類やリスクの層別化、さらには様々な分子標的療法や免疫療法、新しい造血幹細胞移植などが実臨床に導入され、診断および治療法が急速にアップデートしています。この流れは今後ますます加速することが予想され、血液分野の研修ではこれらの進歩を実体験することができます。病棟研修では、様々な血液疾患について診断から治療までを主治医として経験することができます。指導医と一緒に患者さんを担当し、チーム内やカンファレンスで相談をしながら診療を進めていきます。血球減少や血球増多、リンパ節腫大などを来した患者さんについて検査を進めて診断し、病期や疾患リスクを判断し、適切な治療法を選択して病状の改善を目指します。従来からの化学療法のみならず、新規の分子標的療法や自家および同種造血幹細胞移植など幅広い治療を経験できます。治療の際には様々な合併症が問題になるため、感染症や全身の管理についても習熟することができます。また造血幹細胞移植ドナーの骨髄採取や末梢血幹細胞採取といったことも経験できます。血液分野では、他分野の医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、理学療法士や歯科衛生士など様々な職種と協力をしながら診療を進めることが重要です。血液分野の研修ではチーム医療についても学ぶことができます。また骨髄穿刺や骨髄生検、腰椎穿刺、中心静脈ルート確保などの手技、骨髄標本診断のトレーニングができます。また外来での骨髄検査、化学療法などを担当することもできます。週に1回、地域医療研修として特別連携施設での外来および病棟勤務も経験できます。土日、祝日については病棟受け持ち患者さんの状態に応じて勤務調整を行います。



サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 血液分野では、1年目が基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設または連携施設で研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は基幹施設または連携施設で研修を行います。
- 血液分野を重点研修できる施設には、山口大学医学部附属病院、山口県立総合医療センター、徳山中央病院、下関医療センターがあります。
- 基幹施設では、血液重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 連携施設では、原則として内科一般の診療を行いながら、血液分野専門の外来・病棟診療を行います。血液疾患の診断、初期治療を中心とした診療を行い、施設によっては自家末梢血幹細胞移植の経験も可能です。
- 第三内科の担当診療分野である内分泌・代謝疾患の診療も受け持ちます。

連絡先：山口大学医学部附属病院 第三内科 TEL(0836)22-2251
担当指導医 中邑 幸伸(E-mail : nakay@yamaguchi-u.ac.jp)

内分泌・代謝分野研修

内分泌・代謝分野は、山口大学医学部附属病院第三内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	病棟業務	病棟業務 (外来当番)	
火	病棟業務 症例カンファレンス	回診 病棟業務	症例 カンファレンス
水	地域医療研修 (外勤)	地域医療研修 (外勤)	論文抄読会
木	病棟業務 (外来当番)	病棟業務	
金	病棟業務 内分泌代謝症例 カンファレンス	病棟業務	糖尿病患者 カンファレンス



《研修の特徴》

内分泌分野では、初診患者の診断・評価目的での入院を中心に、甲状腺疾患の外来診療の研修を行うことができます。特に基幹施設では脳神経外科や産婦人科・小児科と連携するため、症例が豊富で幅広い疾患を経験できます。

代謝分野では、主に糖尿病とその急性・慢性合併症を通じて、内科全般の幅広い知識の習得が可能です。基幹施設では最新の持続インスリンポンプ療法を積極的に行っており、先進的治療を経験できます。糖尿病患者を中心とした、医師、看護師、薬剤師、栄養士等によるチーム医療を実践し、チーム医療におけるリーダーシップ力が養えます。

技術的には甲状腺エコーの習得が可能です。毎週1回、地域医療研修として、特別連携施設での外来・病棟勤務があります。(左記スケジュール(例)は仮に水曜日と設定しましたが、月曜日・木曜日・金曜日に当たる場合もあります。)ここでは主に通院治療を必要とする内分泌代謝疾患や、内科一般患者を受け持ちます。

土日については、病棟受け持ち患者の状態に応じて時間外勤務を行うことがあります。

サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 内分泌・代謝分野では、1年目が基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設または連携施設で研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は基幹施設または連携施設で研修を行います。
- 代謝(糖尿病)分野を重点研修する施設には、山口大学医学部附属病院第三内科、山口県立総合医療センター、山口赤十字病院、新南陽市民病院、下関医療センター、関連施設では周東総合病院があります。
- 内分泌分野を重点研修できる施設には、山口大学医学部附属病院第三内科、山口県立総合医療センターがあります。
- 基幹施設では、内分泌・代謝分野重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 連携施設では、原則として内科全般の診療を行いながら、内分泌・代謝専門外来と入院診療を担当します。各施設の看護部や薬剤部、栄養治療部等と連携し、糖尿病チーム医療を実践します。NSTに参加する場合があります。
- 患者教育の一環として、糖尿病週間行事、ウォークラリー、1型糖尿病キャンプ等へ参加します。
- 第三内科の担当診療分野である血液疾患の症例も受け持ちます。

連絡先：山口大学医学部附属病院 第三内科 TEL(0836)22-2251
担当指導医 秋山 優(E-mail: masaru.a@yamaguchi-u.ac.jp)

神経分野研修

神経分野は、山口大学医学部附属病院脳神経内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	病棟業務	病棟業務	神経病理及び電気生理カンファレンス
火	症例カンファレンス回診	症例検討会	
水	病棟業務	病棟業務	
木	病棟業務	病棟業務	
金	病棟業務	病棟業務	



《研修の特徴》

筋萎縮性側索硬化症や多発性硬化症に代表される希少疾患やアルツハイマー型認知症、パーキンソン病、脳血管障害といった common disease など、神経疾患全般について充実した研修が可能です。また、当教室の特徴として、血管炎や膠原病、サルコイドーシスといった他の分野の内科疾患に関連した神経疾患症例数が多く、バラエティーに富んだ症例を経験できます。市中病院では遭遇することが少ない中枢性脱髄疾患や免疫性末梢神経疾患・筋疾患は、内科専門研修で研修すべき疾患群に該当しますが、当コースの研修でしっかりと学ぶことができます。

- ・診療体制としては、指導医・上級医とチームを組み、指導・助言を受けながら、担当医として責任をもって診療します。
- ・外来新患や入院担当症例の診察を通して、病歴聴取の技術や神経学的診察手技に習熟し、担当症例の神経局在診断・鑑別診断を論理的に導き出す力を身につけられるよう丁寧な指導が受けられます。
- ・毎週の症例カンファレンスで担当症例のプレゼンテーションを行います。症例カンファレンスと回診を通じて、診断や治療決定プロセスを教室員で議論し、最善の医療を実践します。
- ・上級医の指導のもと腰椎穿刺手技を習得できます。
- ・毎週月曜日の電気生理カンファレンスにより、担当症例の脳波、筋電図、末梢神経伝導検査の所見の読み方を学びます。また、毎週月・火曜日の神経病理カンファレンスでは、神経・筋生検標本の見方・考え方を習得できます。
- ・担当症例のCT、MRI等の神経画像と、診察から導きだした局在診断を比較検討する訓練を行うことで、読影能力と神経局在診断能力が共に身につきます。

サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 神経分野では1年目が基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹施設、または連携施設で研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は基幹または連携施設で研修を行います。
- 神経分野を重点研修できる施設には、当院、山口県立総合医療センター、関門医療センター、徳山中央病院があります。
- 基幹施設では、神経重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 連携施設では、原則サブスペシャリティ研修を中心とした内科全般の研修や内科不足分野の研修を随時行います。

連絡先：山口大学医学部附属病院 脳神経内科 TEL(0836)22-2714
担当指導医 清水 文崇(E-mail: fshimizu@yamaguchi-u.ac.jp)

呼吸器・感染症・アレルギー分野研修

呼吸器・感染症・アレルギー分野は、山口大学医学部附属病院の呼吸器・感染症内科が担当します。

週間スケジュール(例)

	午前	午後	セミナー等
月	病棟業務	気管支鏡検査	抄読会
火	外勤	教授回診	新患カンファレンス
水	病棟業務	気管支鏡検査	胸部合同カンファレンス
木	病棟業務	病棟業務	
金	病棟業務	外勤	



《研修の特徴》

当科は人体の主要な構成要素である呼吸器を入口に、急性から慢性、悪性から良性まで実に幅広い疾患を対象として診療を行っています。感染症・アレルギー・膠原病・腫瘍など多岐に渡る領域をカバーしながら、高度な医療であることはもちろんのこと、患者さんのニーズに応じた「求められている医療」を専門家の立場から提供することを心がけています。そのために臨床・研究・教育をバランスよく推進し、専門的臨床能力と指導力を併せ持つ呼吸器内科医・感染症内科医・アレルギー内科医の育成を行っています。

当科の特徴として、研究は各々専門分野を持ちつつ、臨床は満遍なく全ての分野を対象とすることを目標にしています。そのため5つある臨床チームのいずれに配属されたとしても、全ての分野の患者さんを偏りなく担当することが出来ます。また common disease から希少疾患に至るまで豊富な症例を、呼吸器内科全般に精通した（とても優しい）指導医の下に経験することが可能です。気管支鏡検査をはじめ胸腔鏡検査、胸腔ドレナージ、人工呼吸器管理など手を動かす機会にも恵まれています。毎週行っている新患紹介（カンファレンス）や回診、日々の診療において気さくでありながら活発なディスカッションが行われており、これまで自分になかった新たな視点から問題点を洗い出し、課題を解決する力をつけることが出来ると思います。皆さんの臨床力にさらに磨きがかかること間違いなしです！

抄読会を毎週開催し、専攻医も積極的に学会活動や論文執筆に取り組んでいます。こうした経験を通して、最新の知識や専攻医に必要な臨床課題を解決するための論理的思考力も身につくと期待しています！

サブスペシャリティ専門コース

《コースの特徴》

- 呼吸器・感染症・アレルギー分野では、1年目が基幹施設、2年目は連携施設、3年目は基幹または連携施設で研修を行います。
- 混合研修コースの場合、4年目は基幹または連携施設で研修を行います。
- 呼吸器分野を重点研修できる施設には、当院、山口宇部医療センター、済生会下関総合病院、岩国医療センターがあります。
- 基幹施設では、呼吸器重点研修の他に、他の診療科でのローテーション研修を行うことができます。
- 連携施設では、原則サブスペシャリティ研修を中心とした内科全般の研修や内科不足分野の随時研修を行います。

研修施設群一覽

山口大学医学部附属病院内科専門研修では、山口大学を基幹施設として、山口県内及び近隣の医療圏にある連携施設（内科学会認定教育病院及び教育関連病院）と、特別連携施設（内科指導医が不在の施設または施設基準が連携施設に満たない施設）が施設群を構築しています。内科専門研修はこれらの施設群の中で行われます。

施設名		
基幹施設	山口大学医学部附属病院	
連携施設	教育病院	
	山口県立総合医療センター	
	独立行政法人国立病院機構岩国医療センター	
	財団法人平成紫川会社会保険小倉記念病院	
	島根県立中央病院	
	教育関連病院	
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会山口総合病院	
	総合病院山口赤十字病院	
	独立行政法人労働者健康安全機構山口労災病院	
	医療法人社団宇部興産中央病院	
	独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター	
	独立行政法人地域医療機能推進機構下関医療センター	
	独立行政法人国立病院機構関門医療センター	
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会下関総合病院	
	地方独立行政法人下関市立市民病院	
	独立行政法人労働者健康安全機構愛媛労災病院	
	独立行政法人国立病院機構浜田医療センター	
	医療生協健文会宇部協立病院	
萩市民病院*		
山口県厚生農業協同組合連合会長門総合病院*		
特別連携施設	山口県厚生農業協同組合連合会小郡第一総合病院	山陽小野田市民病院
	美祢市立病院	美祢市立美東病院
	下関市立豊浦病院	下関市立豊田中央病院
	脳神経筋センターよしみず病院	周南市立新南陽市民病院
	光市立光総合病院	光市立大和総合病院
	周防大島町立大島病院	周防大島町立東和病院
	周防大島町立橘医院	独立行政法人国立病院機構柳井医療センター
	岩国市医療センター医師会病院	岩国市立美和病院
	岩国市立錦中央病院	社会医療法人同仁会周南記念病院
	小野田赤十字病院	医療法人社団成蹊会岡田病院
	社会医療法人尾中病院	医療法人医誠会都志見病院
	医療法人人生山会斎木病院	医療法人神徳会三田尻病院
	医療法人協愛会阿知須共立病院	医療法人聖比留会厚南セントヒル病院
	医療法人聖比留会セントヒル病院	医療法人杏祐会三隅病院
	医療法人星の里会岡病院	防府リハビリテーション病院
	一般財団法人防府消化器病センター	

*新制度における連携施設のみ

施設別担当分野一覧

診療可能な分野は○、分野別専門医や指導医が常勤で在籍し、専門的な研修の可能な分野は◎で記載しています。

施設名	内科一般	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
山口大学医学部附属病院	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
山口県立総合医療センター	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎
岩国医療センター	○	◎	◎				◎	◎					◎
徳山中央病院	○	◎	◎	○	◎		○	◎	◎			◎	◎
周東総合病院		◎	◎	○	◎			○					
済生会山口総合病院	○	◎	◎	○	◎	◎		○			◎	○	○
山口赤十字病院	○	◎	◎	○	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	○
山口労災病院	○	◎	◎	○	◎		○	◎			○	○	○
宇部興産中央病院		◎	◎	○	◎			◎	◎			○	○
山口宇部医療センター	○Ⅲ						◎						○
下関医療センター	○	◎	◎	○	◎			◎	◎				○
関門医療センター	○Ⅰ	◎	◎	○	◎			◎	◎			○	○
済生会下関総合病院	○ⅠⅡ	◎	◎			◎	◎						○
下関市立市民病院	○	◎	◎		◎	◎		◎			◎	○	○
小倉記念病院		◎	◎			◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎
島根県立中央病院	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
愛媛労災病院	○ⅠⅡ		◎	○	◎		◎					○	
浜田医療センター	○	◎	◎		◎	◎	◎					◎	◎
宇部協立病院	○	○	○		◎	○	○				◎	○	○
萩市民病院	○	◎	◎		○	○	○		○	○		○	○
長門総合病院	○	○	○	○	○			○				○	○

*内科サブスペシャリティ分野の専門医や指導医の異動に伴い各施設の研修分野が変更となることもあります。

内科専門研修において求められる疾患群、症例数、病歴提出数

内科専門研修では、カリキュラムに定められた 70 疾患群の症例を主担当医として疾患群ごとに最低一つは経験することが求められています。

研修修了までに全 70 疾患群、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで）を経験することを目標とし、最低 56 疾患群以上、計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで）を経験することが修了要件となります。

（詳細は内科専門研修カリキュラムと研修手帳を参照のこと）

	内容	専攻医 3 年 修了時	専攻医 3 年次 修了要件	専攻医 2 年次 経験目標	専攻医 1 年次 経験目標	※ 5 病歴要約 提出数
分 野	総合内科 I	1	1 ^{※ 2}	1		
	総合内科 II	1	1 ^{※ 2}	1		2
	総合内科 III	1	1 ^{※ 2}	1		
	消化器	9	5 以上 ^{※ 1 ※ 2}	5 以上 ^{※ 1}		3 ^{※ 1}
	循環器	10	5 以上 ^{※ 2}	5 以上		3
	内分泌	4	2 以上 ^{※ 2}	2 以上		3 ^{※ 4}
	代謝	5	3 以上 ^{※ 2}	3 以上		
	腎臓	7	4 以上 ^{※ 2}	4 以上		2
	呼吸器	8	4 以上 ^{※ 2}	4 以上		3
	血液	3	2 以上 ^{※ 2}	2 以上		2
	神経	9	5 以上 ^{※ 2}	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上 ^{※ 2}	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上 ^{※ 2}	1 以上		1
	感染症	4	2 以上 ^{※ 2}	2 以上		2
	救急	4	4 ^{※ 2}	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計		70 疾患群	56 疾患群	45 疾患群	20 疾患群	29 症例 (外来最大 7) ^{※ 3}
症例数		200 以上 (外来最大 20)	160 以上 (外来最大 16)	120 以上	60 以上	

※ 1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※ 2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて合計 56 疾患群以上の経験とします。

※ 3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認めます。

※ 4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。例) 「内分泌」2 例 + 「代謝」1 例

※ 5 病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。

若手医師からのコメント

第一内科（消化器内科）の川本大樹と申します。私は学生時代からの悪性疾患に携わりたいとの希望のもと、消化器内科分野に興味を抱き第一内科に入局し、現在肝臓グループで肝硬変や肝癌の患者さんの治療を行っております。

漠然と内科に興味があるけど、どの診療科にしようか迷っている方も多いと思います。消化器内科領域はカバーすべき臓器が多く、良性疾患と悪性腫瘍、急性疾患や慢性疾患と多様性に富んでいます。消化器内科医にはしっかり病態や治療を考える面と、内視鏡検査・処置のほかにも血管内治療やエコーでの治療など自分の手で患者さんの治療をする手技科の両面があり、手に職がつく内科医です。確かに消化器内科は忙しく、大変な診療科ですがきつと充実した日々を送れます！

ぜひ私たちと一緒に働きましょう！

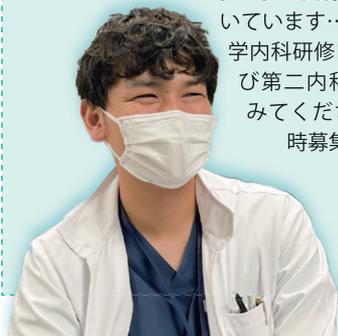
第一内科
川本 大樹先生



当科の特徴はまず第一に古式ゆかしキナンバー内科であり、カバーする領域が循環器、腎臓、膠原病と幅広く診療科内で多くの経験を積むことができます。私は循環器が専門ですが、内科医として診療を行う中で非感染性炎症の知識・経験の必要性を感じ、膠原病内科の診療にも関わらせていただいています。不明熱の診療やステロイドの使用の際には、専門的にアドバイスを受けながら診療することができ、大講座制のメリットを感じています。反対に、循環器以外の領域の先生に心エコーの手技修得のお手伝いをすることや、領域を跨いだ患者と一緒に診療を行うこともあり当科の強みと考えます。

また、循環器を標榜する科であり全身管理を得意としています。心不全の診療、循環管理はもちろんのこと、集中管理においては呼吸管理や栄養管理などあらゆる分野の介入が必要ですが、補助循環を要する来院時心停止例を、歩いて退院させることもまれではありません。重症・急変時に活躍できる医師になりたい方にもおすすめの診療科です。

重症と聞いて心配になった方も、当科は伝統的に後輩の面倒見がとてよい科であると自負しています（私自身、いつも先輩方にお世話になりながら成長させていただいています…）。ぜひ山口大学内科研修プログラムおよび第二内科の門を叩いてみてください。見学も随時募集しています。



第二内科
縄田 純也先生

第三内科に所属している伊藤渉と申します。

第三内科は、糖尿病・内分泌内科領域に加え、血液内科領域の診療を中心に行っています。

第三内科の専門研修において、自分は現在大学で病棟診療を行い外病院で糖尿病外来診療を行っています。週1回の糖尿病外来診療では、糖尿病をメインに診ることになりますが、時々ほかの内分泌疾患の方や血液疾患の方の紹介・受診があります。解釈の難しい場合もありますが、入院が必要と感じる症例については病棟医長に電話して相談することができ、大学に帰れば自分の解釈が正しかったかを上級医に相談することもできます。まだ入局して2か月ほどであり、戸惑うことしかありませんが、糖尿病・内分泌や血液に興味のある方はぜひ入局してみてください。

第三内科 伊藤 渉先生



脳神経内科に入局した山中菜々美です。

患者さんを診ていく中で、高度で専門的な知識や技術を積み上げていくことも勿論重要ですが、医者たるもの、困った患者さんを目の前にして助けられるかが腕の見せ所だと思います。困った患者さんはERにも一般外来にも来られます。どんな診断になり、どんな治療方針を決定するか、どんな最期を迎えるのかを見届けることが内科医の仕事です。脳神経内科では「病歴聴取」と「身体診察・神経診察」から論理的に診断・治療に結びつける訓練を日々行っており、ERを含めて内科診療の基本を学ぶことができます。

また、急性期疾患である脳卒中や髄膜炎・脳炎から、慢性進行性の変性疾患、若年者から高齢者まで幅広い領域が守備範囲になるため、「全身を診る内科医」になれる分野です。

さらに、今たくさんさんの神経疾患が「治らない」から「治る」疾患へと変わってきています。今後どんどん進歩していく神経学の世界と一緒に学んでいきたい方、大歓迎です。

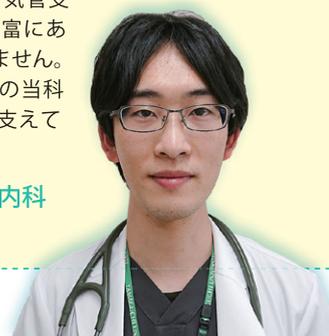
脳神経内科
山中 菜々美先生



大学病院で研修する醍醐味は、何といてもアカデミックな視点を通して臨床力を磨くことが出来ることだと思います。カンファレンスや日々の診療において、当科では指導医の先生方とても活発で気さくなディスカッションが行われ、それが我々専攻医の成長の糧になっています。

当科がカバーする分野は実に多岐に渡るがゆえ、全人的な医療を身につけることが出来ます。気管支鏡検査など手技を行う機会も豊富にあるので手持無沙汰なんて言わせません。設立から7年、まだまだ成長中の当科の仲間として一緒に患者さんを支えていきませんか？呼内にこない？！

呼吸器・感染症内科
山本 佑先生



研修環境をサポートする施設・設備

診療科に所属する場合は、所属先でデスク等が用意されており、診療科内で情報交換がしやすい環境が整っています。診療科に所属せずに研修する場合は、医療人育成センター内にメールボックスとモバイルワゴンを備えた個人ロッカーと共有機を用意し、病院情報システム（電子カルテ）端末、共用パソコンを設置しています。山口大学医学部附属病院の職員に発行されるアカウントを使用すれば、院内 LAN を通じて Procedures Consult や Up To Date、文献検索システム、メールなどが常時利用できます。



図書館



ホスピタルカフェ



LAWSON 山大病院店

女性医師のサポート体制

山口大学医学部附属病院のすぐ近くに併設されている院内保育所「たんぼぼ保育園」の利用が可能です。また、利用登録することで院内にある女性医療従事者専用の更衣・休憩・仮眠室「Room Kiitos」を利用できます。ロッカーやソファ、ベッドが完備されており、広いロッカーエリアでゆったり着替えたり、大きめのソファで休憩したりすることができます。その他にも、働きやすい職場にするための相談窓口として医療人キャリア支援室が設置されており、妊娠・出産や子育てなどに関わる各種制度・施設等の情報提供や、マタニティ白衣・スクラブの貸し出しをしています。



たんぼぼ保育園



Room Kiitos





山口大学医学部附属病院 病院見学について

- 《 対 象 》 医学生、研修医
- 《 申込方法 》 見学を希望する日(土日祝日を除く)の14日前までに、ホームページの申込フォームをご利用ください。
※見学希望の診療科と日程を調整し、後日詳細をご連絡します。
- 《お問い合わせ》 医学部総務課育成支援係（研修医・専門医支援部門）
TEL：0836-22-2129 Mail：me209@yamaguchi-u.ac.jp
HP：山口大学医学部附属病院医療人育成センター
<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cdc/>



身分及び処遇について

- 《 職 名 》 診療助教
- 《 身 分 》 非常勤職員
- 《 勤務形態 》 週4日31時間勤務（勤務日以外の兼業可）
- 《 給与(手当) 》 本学就業規則による
※週4日勤務の場合：平均約38万円/月（夜勤手当、通勤手当等含む）
※関連病院の採用者は、採用となる病院毎に職名、身分、給与等は異なります。
- 《 休 暇 》 国立大学法人山口大学非常勤職員の勤務時間、休暇等に関する規則に基づく
- 《社会保険 等》 健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険適用
- 《サポート体制》 育児のための短時間勤務制度あり

問い合わせ先

内科研修全般に関すること、山口大学医学部附属病院に関すること、募集受付等については、**山口大学医学部附属病院 医療人育成センター** にお問い合わせ下さい。

住所：〒755-8505 山口県宇部市南小串1-1-1

電話：0836-22-2129

FAX：0836-22-2157

E-mail：me209@yamaguchi-u.ac.jp（総務課育成支援係）

HP：https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cdc/

